

A．主な動き

1．内政

・2日、フィラト首相(自由民主党党首)は、内閣改造の必要性を強調、自由民主党所属の閣僚から交代人事に着手する意向である旨発言。

・6日、ティモフティ大統領は、ペドゥラル大統領府事務局長、チョバヌ農産業・公共政策担当大統領補佐官、ストゥルザ再統合担当大統領補佐官を任命する大統領令を発出。

・6日、ルプ議会議長は、モルドバ議会は9日からの週に沿ドニエストル「最高会議」との対話を目的とした議会特別委員会を設置する旨発表。これに対し、同日、沿ドニエストル「最高会議」は、本件に関し十分な議論が行なわれていないとして、時期尚早であるとする声明を発表。

2．外交

▼ミニヨンPACE議長の来訪(2～5日)

・2日、ミニヨン欧州評議会議員会議(PACE)議長は、モルドバを訪問し、ルプ議会議長と会談。ルプ議長は、欧州評議会がモルドバの政治、経済改革の推進を支持していることに謝意を表明。双方は、沿ドニエストル紛争解決に向けたPACEの協力に関し協議。

・同日、ミニヨン議長は、カルポフ国家再統合問題担当副首相と会談し、2月のダブリンにおける「5+2」者公式会合の成果及び今後の沿ドニエストル紛争解決過程等に関し協議。

・3日、ミニヨン議長と会談したフィラト首相は、2013年の東方パートナーシップ首脳会合までにモルドバ政府はモルドバ・EU連合協定及びDCFTA交渉実施に関わる全ての義務(欧州基準の法の整備、改革等)を履行する旨言明。

・同日、ミニヨン議長は、ティモフティ大統領と会談し、モルドバの欧州統合、沿ドニエストル紛争解決及び欧州評議会・PACEとのパートナーシップ等に関し協議。また、同日、同議長は、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相と会談。

・4日、ミニヨンPACE議長は、沿ドニエストルを訪問し、シェフチューク「大統領」及びシュタンスキ「外相」等と会談。同議長は、沿ドニエストル問題解決に向け欧州評議会及びPACEと沿ドニエストルの協力を提案。シェフチューク「大統領」も、協働の有用性を指摘。

・5日、ミニヨン議長は、今回の訪問の成果の総括としてルプ議会議長と会談し、沿ドニエストルの新指導者は柔軟で率直な印象であったとして、モルドバ・沿ドニエストル間の交渉進展が現実的に期待できる旨発言。

▼ラッセル米国国務次官補代理の来訪

・3日、ラッセル米国国務次官補代理(露・ウクライナ・モルドバ・ベラルーシ担当)は、モルドバを訪問し、ティモフティ大統領と会談。ティモフティ大統領は、米国のモルドバに対する社会・経済・政治及び沿ドニエストル問題等あらゆる面での支援に謝意を表明。双方は、二国間関係の活性化に関し協議。

・同日、フィラト首相は、ラッセル国務次官補代理と会談し、モルドバの欧州統合問題及び沿ドニエストル紛争地帯の平和維持部隊のフォーマット変更等に関し意見交換。ラッセル国務副次官補は、モルドバの欧州統合路線の維持の重要性を強調。

3．沿ドニエストル

▼フォーレ・アイルランドOSCE議長国沿ドニエストル問題担当特別代表のモルドバ訪問

・4日、沿ドニエストルを訪問したフォーレ特別代表は、シェフチューク「大統領」及びシュタンスキ「外相」等と会談し、沿ドニエストル・モルドバ間対話の活性化、「5+2」者会合における議題等に関し協議。

・5日、フォーレ特別代表は、ティモフティ大統領との会談において、モルドバ・沿ドニエストル間の鉄道運行再開決定を歓迎する旨発言し、沿ドニエストル紛争解決に向けた動きの支援の継続を表明。

▼その他

・3日、シェフチューク「大統領」は、モスクワを訪問し、キリル露正教総主教と会談。会談後の記者会見において、モルドバとEUのDCFTA交渉及び露・モルドバ貿易・経済協力政府間委員会にオブザーバーを派遣する意向である旨及びモルドバとの互惠関係を発展させる準備がある旨発言。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)